

【地域大規模防災訓練】

★取組みについて

地域住民、法人の垣根を越えた、大規模災害時の避難訓練を年 1 回実施している。

★取組みを行って

東日本大震災以降、北海道でも台風被害やブラックアウトなど被害も甚大。いつ何があってもおかしくないこの時代に、地域の方を巻き込んでの共同防災訓練を行い、災害への意識や啓蒙が一段進んだと感じている。

【地元建設会社防災訓練へのブース出展】

★取組みについて

災害時の衛生管理、福祉用具の有効活用、エコノミー症候群防止体操等、ブース出展を実施。

★取組みを行って

福祉業界だけではない、他業種との連携や防災知識・技術等の取得、その中で当法人ができる地域貢献を含め、福祉関係業種唯一の出展を行っている。

【小地域ネットワーク活動事業】

★取組みについて

- 各自治会のネットワーク活動を支援するための事業です。
- 住み慣れた地域で誰もが安心して生活できるよう、各自治会の活動を通して「思いやりのある地域福祉のまちづくり」を目的としています。
- 各自治会へ地域福祉活動への働きかけと助成金を支給しています。

★取組みを行って

- 高齢者の見守りや安否確認、交流会の開催、草刈・除雪作業などを地域で行うようになりました。
- 地域によって取組や活動に差があるため、引き続き働きかけを継続していきます。

【福祉避難所周知と防災意識の向上】

★取組みについて

帯広市から「福祉避難所」としての指定を受け、有事の際に利用者の方、地域に住む要援護者の方、支援を提供する側である施設職員自らを守るために、どのような対応を取り普段からどのようなことを準備しておけば良いのかを知るための取組みとして実施。

今回、行った福祉避難所を想定した運営ゲームでは、違った視点から施設を見て頂こうと施設職員その他、町内会の役員、消防署員がグループとなり行いました。施設職員の視点が強く出てしまったグループの中には、「避難してきた全員を何とかしたい」という思いが強く出てしまい資源に限りがあるとの意識が無くなり、結果として、施設が受入れられる収容人数を超える40名以上に達してしまう場面も見られ、受入基準を事前に決めておかなければならないと感じました。また、真冬に災害が起こる可能性があるとの意識も低かったように思います。避難者を受け入れる受付を正面玄関に設けるグループがほとんどで消防署員から、停電で自動ドアが止まっていることや、避難者が来る度に外からの冷気が入ってくるという意識が低いのではないかとのお話もあり、建物の配置構造を知っている施設職員との視点のズレを発見することができました。町内会の役員の方からは、災害の際に地域で起こることを地域住民の視点でお話頂き、住んでいる近隣に支援を行う施設・仕組みがあることを知って頂く機会とすることができ、有意義な内容となりました。

★取組みを行って

真宗協会法人創立60周年事業として、平成21年に施設近隣の町内会との「災害時における要援護者を支援する協定」を締結したことをきっかけに、災害時における要援護者の収容可能な人数として、20名3日間分の食料・飲料水を確保するなど、日頃より災害に備えております。また、年1回は、地震に伴う停電や断水など様々な場面を想定した、防災訓練を実施するなど職員のみならず、利用者の方も巻き込んで防災意識の高揚に努めております。

帯広市から「福祉避難所」の指定を受け、平成30年度は、福祉避難所を想定した「避難所運営ゲーム DoHUG」を行いました。職員その他、近隣町内会の役員、消防署員を交え様々な視点から、自施設と自施設を取り巻く地域の防災対策に目を向けるきっかけを持つことができました。

【コープさっぽろ柏店 ちょこっと茶屋】

★取組みについて

地域包括支援センターが地域に根付いた活動の中で、地域のコープさっぽろより要請があり実施しているものです。コープさっぽろの地域貢献活動としてこの相談会が行われており、私たちが相談対応を依頼されています。

地域の企業がこのように地域貢献活動を展開され私たちが協力できることで、地域のネットワークの構築になり、地域の社会資源の拡大において有益な活動と考えます。

地域の皆さまが住み慣れた地域で今後も暮らし続けるために、何が必要なのか、センターとしても地域の事業所としての一端を担い、地域包括ケアシステムの構築につながるものと考えております。

相談対応の内容ですが、買い物帰りのお客様がブースに立ち寄り、介護に関する悩み事や、介護申請の相談、健康に関する相談、認知症に関する相談など多岐にわたります。また、認知症の早期発見チェックリストの実施をご希望の方に実施しております。

毎月1回コープの日に合わせ実施しています。

★取組みを行って

相談会に立ち寄るお客様は、相談会開始のころより増える傾向にあります。

相談のみならず認知症早期発見のテストの実施や、コープから粗品の贈呈の協力もあり、喜ばれています。お客様の中には心配な様子の方も適宜、こちらから声掛けをする時があります。

コープさっぽろの広報誌に相談会の広告を掲載しています。

【災害時炊き出し訓練】

★取組みについて

デイサービスセンターが新築移転をした際に所属した町内会と合同で防災訓練を実施しています。

炊き出し訓練を町内会と協力して行うことで、地域への貢献活動として備えている設備（ガスバルクシステム）の活用と、非常災害時におけるデイサービスセンターの役割などを地域住民の皆さまに知っていただくと共に、災害対策に備える事を目的としています。

★取組みを行って

平成30年7月22日（日）に、第1回目の開催を行い、町内会の皆さま22名に参加いただきました。炊き出し訓練の他に、東日本大震災のドキュメント番組の放映、非常食の試食、非常災害グッズの展示等も行いました。実施後に参加者の皆さまに炊き出し訓練の内容に関するアンケートを行い「とても参考になった」「また行って欲しい」など、沢山の意見をいただきました。（参加者全員から回答をいただく）

毎年継続して実施する予定です。

【春光台 SOS 安心ネットワーク】

★取組みについて

地域のお年寄りや住民の見守りネットワークとして各施設等が連携をとって捜索協力を行う。

★取組みを行って

この事業を通して、地域に向けての施設の役割を考えるようになった。

【春光台 SOS 安心ネットワーク】

★取組みについて

春光台地区で所在不明者等が出た時に所在確認に協力する取り組みです。近隣施設の方が所在不明になった際搜索活動に出掛けました。

【地域交流懇談会】

★取組みについて

地域の方に介護技術や制度理解を深める為の勉強会を行うものです。

関連医療法人と開催し、看護師、介護福祉士、セラピスト、ケアマネージャー、ソーシャルワーカー、管理栄養士を講師として、行っています。

★取組みを行って

地域の方々には、いつ直面するかわからない介護の知識や技術を修得する場として活用していただいています。町会単位で見学の問い合わせの対応時、具体的な事例や地域の施設のそれぞれの違い、介護技術の実技を求める声が多いことから懇談会を開催することとなりました。

【東地域ネットワーク懇談会】

★取組みについて

住み慣れた地域で孤立しない、自分の居場所がありいつも誰かと繋がっている。孤独死、孤立死をなくすため地域にネットワークを作り、ともに地域を支えていくことを目的に取組みを始めた。そして以下のサロンを立ち上げた。

東いきいき相談局（毎月1回 15日前後）

地元の郵便局から旧集配室を地域のために活用してほしいと申し出があったことがきっかけでした。サロンとしての機能を果たし、地域の高齢者が気軽に集える場所を提供しているほか、ケアマネージャーや行政書士、薬剤師などから生活に必要なアドバイスが得られる相談会やミニ講座を行っています。また、福祉用具やデイサービス利用者の作品展示など様々な取組・活動も行っています。年金支給日に合わせて郵便局で開催することでリピーターも多く、住民が地域において生活を営む上で孤独感解消や安心感を得ることに役立つ活動を展開しています。参加者の交流の場として賑わうとともに様々な分野の方がかかわっていることから日常生活に役立つ情報を得ることができます。

沼ノ端地域食堂（奇数月第3木曜日）

地元のコミセンでボランティアの協力を得ながら運営を進めています。用意されるすべての料理は地域住民や企業から寄贈された食材で調理します。元気な高齢者の方には開催当日に調理班と設営班に分かれお互いに協力しながら準備をします。参加者は食材の寄贈または100円で食事をすることができます。バイキング形式のため参加者は好きな料理を選びながら相席した参加者同士で食事を楽しめます。地域食堂は「集うこと」が目的で食事を通じて「交流」も生まれます。事前に開催を知っていた方以外にも当日コミセンを利用していた方も来て様々な年代の交流も見られます。ボランティアの方たちも互いの調理方法を知って学んでいたり後片付けならできると協力します。それぞれ役割を持って活動しているので地域貢献できる場にもなっています。地域食堂を通じて住民同士の繋がりができ住民が地域活動に貢献できる居場所になっています。

歌声サロン（毎月1回第4金曜日）

コミセンの集会室に月に1度ボランティアで音楽活動をされている方が来て「一緒に歌いましょう」をテーマに活動中です。東地域だけでなく広く苫小牧市内から参加される方もいらっしゃいます。ひとりで参加する方も多くそこで顔なじみになって会話をするようになりたり困りごとの相談につながることもあります。運営はボランティアが主体となり参加していた方もお手伝いを戴けるようになりました。集まる場所がたくさんあって自分に合ったものを選ぶことを大事にしています。うたった後はすっきりしてまたあすから頑張ろうと思えるそんな場所が歌声サロンです。

★取り組みを行って

2013年の春、「孤独死・孤立死を防ぐために何ができるか」をテーマに地域のケアマネージャーや介護事業者、民生委員などが集まりグループワークを行ったことが最初のきっかけでした。グループワークでは「どんな方が孤立するのか」「孤立する方を支えるネットワークはどのようなものが必要か」などたくさんの意見がありました。その後会合を重ね参加者を中心に東地域ネットワーク懇談会を立ち上げました。毎年度末に東地域ネットワーク懇談会を構成するケアマネ、民生委員、介護事業者らが集まりその年の地域の課題、会の活動の成果等を確認します。構成メンバーが情報を共有し、次年度に向けての目標を設定します。会のメンバー同士の結束が強まりみんなで繋がりながら地域を支えていく機運が高まります。

【地域自治会への協力】

★取組みについて

施設のある地域では、高齢化が進み自治会活動の担い手が不足している。施設が自治会の事務局を担い、広報誌の配布やお祭りへの協力を行っている。

★取組みを行って

伊達市大滝区では、自治会活動の担い手不足が背景にあり、施設の人的物的資源を提供し、自治会活動を行っている。特にお祭りでは、会場設営からテント等の貸し出し等大きな役割を担っている。

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

北見市

【役職員研修を市内社会福祉法人に開放】

★取組みについて

平成 31 年度中に立ち上げを予定している市内社会福祉法人との連携強化に向けた環境醸成。

★取組みを行って

平成 28 年度に市内社会福祉法人に公益的な活動に関する実態調査を実施。併せて、社会福祉法人制度改革に関する法人役職員研修を市内社会福祉法人に開放。平成 29 年度は大阪府豊中市社協の勝部麗子氏を招いて講演会を実施。こうした取り組みを通じて社会福祉法人の公益的取組を推進するプラットフォームを構築する予定。

【風水害対策合同訓練】

★取組みについて

昨今、日本各地では台風、異常気象に伴う豪雨、それによる土砂災害や洪水がおき、甚大な被害をもたらしている。札幌市においては、幸いに被害の発生は見えていないものの、何時このような災害に遭遇するかわからないことから災害弱者である園児、高齢者等を守り災害発生時に職員が適切で迅速な対応ができるよう訓練を行い、併せて防災意識の向上を図るとともに、地域、近隣施設との連携体制の確立を図ることを目的とする。

★取組みを行って

地域との繋がり及び施設における防災体制を深める為、平成 28 年度より地域の福祉施設と合同避難訓練を実施してきた。最初は近隣の老人ホームを含む 3 施設で札幌市危機管理対策室を訪れたり防災会社に訓練方法を相談しお互い意見を出し合いながら実施してきた。現在では参加施設も増え地域の身近な人との触れ合う機会も多くなり事前打合せの際には、訓練以外の情報交換もするようになり地域との良い関係性ができている。

また、他施設との交流活動を担当する職員も事前に緊急連絡先、避難場所、河川状況等の確認準備も積極的に行い、業務に対するモチベーションの向上も見られるようになった。